シリーズ

かほく市の文化財 No.53

遺跡 編　宇気塚越１号墳

今回は、かほく市宇気にある石川県指定史跡「宇気塚越１号墳」について紹介します。

宇気塚越１号墳は、宇気地内の石川県鋳鍛工業団地がある標高１５～１６ｍほどの丘陵に位置しています。この丘陵は宇気塚越遺跡として工業団地を造成する際に発掘調査が行われ、宇気塚越１号墳も発掘調査されました。宇気塚越１号墳は、全長約１８ｍ、周溝を伴う古墳時代前期の前方後方墳で、後方部に棺を納めたとみられる穴を確認しています。その穴からは鉄鏃やガラス製小玉、壺や高坏が出土しました。他にも１号墳の周囲に円墳を３基、方墳を１基確認しました。

周囲の様子をみると、弥生時代後期の高地性環濠集落である鉢伏茶臼山遺跡や、主に弥生時代後期に玉づくりをしていたとみられる宇気Ｃ遺跡、１号墳とほぼ同じ場所にあり縄文時代から古代（奈良・平安時代）まで続く宇気塚越遺跡があります。そして、現在は木々で見通しにくいですが、１号墳は宇ノ気川から河北潟方向の低湿地（現在は水田）を見通せる位置にあります。古墳時代前期頃は、宇気の石川県鋳鍛工業団地がある丘陵あたりがもしかすると１つの勢力だったのかもしれないことが伺えます。

もうしばらくすると、宇気塚越１号墳の整備と共に周りに植えられた桜が開花します。ちょっとしたお花見がてら宇気塚越１号墳を見にいかれてみてはいかがでしょうか？

春の宇気塚越１号墳

写真の中央が宇気塚越１号墳。前方部から撮影。